

風土記の丘の花だより²³⁰

今、そしてこれから見られる植物(2024年4月9日)

ソメイヨシノは満開を過ぎ、花吹雪が舞っています。山ではヤマザクラにかわってカスミザクラが咲き始めていることでしょう。そして、そろそろサトザクラの仲間が見頃を迎えます。



進入路のカンザンには株数も多く、よく知られていますが、写真のサトザクラはイチヨウという品種です。トイレの南側の広場にありますが、銀杏のなるイチヨウではありませんよ。ヨが小さくありませんね。「イチヨウ・一葉」です。名前の由来は、花の中を覗くと納得します。おしべが一つ小さな細い葉に変わっています。花の中にチョロっと見えているのがそれです。サトザクラは八重桜とか、ポタン桜などとも呼ばれ、たくさんの品種があります。薄緑色の花びらで知られるギョイコウもその一つです。安藤塚の北に大きな木があります。



この鮮やかなピンク色(赤紫色?)の花はハナズオウです。谷山家の庭に咲いています。葉を出す前に花だけが咲きます。漢字では「花蘇芳」と書きます。蘇芳とは、赤色の染料として昔から知られている熱帯地方に生えるマメ科の植物です。この木も同じくマメ科で、花がきれいなのでこの名前が付いています。白い花のものもありますが、風土記の丘には植えられていません。中国原産で、江戸時代に渡来したと言われています。



どこかで見たような、見ないような、何の変哲もない草花のように見えます。が、どうしてどうして、この草は少し珍しいのです。名前はミミナグサといい、ナデシコ科の草です。外来種のオランダミミナグサ(青枠写真)はどこにでもたくさん生えていますが、これは在来種です。色はオランダに比べ少し濃い目で、茎は紫色です。ハクモクレンがキレイに咲いていた花木園の辺りの園路の溝沿いにたくさん自生しています。葉の形がネズミの耳に似ているというのですが、はて、似ているのでしょうか?



野に咲くお豆の3兄弟が揃って咲いています。写真の左端のピンク色の花が、ご存じカラスノエンドウ、真ん中の白っぽいのはスズメノエンドウ、右端の丸っこいのがカスマグサです。カラスとスズメは大小を比較する場合、植物名によく使われる言葉です。カスマは、そのカとスの間(ま)、です。それでカスマとなりました。(ではどうしてカスマエンドウにしなかったのでしょうかね。)春は野の花がいっぱい咲きます。楽しみですね。

松下